

事業の背景・目的

- 【背景】地域の環境保全活動関係者の高齢化による持続可能な里山の維持困難
- 【目的】里山維持管理手法について明確なガイドラインを示し、見沼田圃の環境保全活動関係者に積極的に利用してもらうことで、活動の効果を高めると共に、活動継続に向けて大きな課題の一つとなっている後継者や協働者の育成にも資することを目的とする。

事業の内容

事業① 希少動植物の維持、保全実証事業

- ・保全対象種の現状の生息、生育状況を踏まえた管理方法の検討
- ・管理方法に準じた実証試験を実施
- ・維持管理手法の試験計画の策定



事業② 水辺動植物管理実証事業

- ・高茎植物の刈取り管理試験
- ・動植物調査
- ・第2期池の整備



得られた成果

事業① 希少動植物の維持・保全実証事業

- (1)高茎草本の管理については、刈取り回数（1,3,6回）を変えて実施、3回刈取りでも草丈は比較的低茎状態を維持
- (2)河畔林を想定した遮光区(1回刈)では草丈は低い状況を維持
- (3)令和5年に整備した池の周辺の刈取り整備を順応的に実施し、環境ごとの解放水面確保の管理方法を検討
- (4)池に隣接するヨシ草地でオオヨシキリ（重要種）の営巣を確認したため、順応的に刈取り計画を変更するとともに、池の第2期整備位置を変更して1月下旬に実施

事業② 水辺動植物管理実証事業

- (1)動物の現況【指標】トンボ13種確認(調査範囲内で23種)
昆虫類：8目39科85種 キロサハ（国NT・県VU）調査範囲内で確認
水生生物：トホ 5種/その他水生昆 4種/甲殻類 3種/魚類4種
鳥類：11目27科48種 希少種17種確認
- (2)植物の現況【指標】湿生植物48種確認（通年で76種）
植物：78科280種(通年) 重要種5種確認
- (3)冬季に池を整備(第2期整備)
水深が浅く水位変動がある池を整備



- 課題 (1)池の整備直後は湿原性植物や水中植物等の展開がみられなかった。池の整備で出た残土を用いた埋土種子試験を行い、水際への移植を含めた手法を検討する余地がある。
- (2)アメリカザリガニが確認されており、水生昆虫や水生植物への影響が懸念される。アメリカザリガニの駆除の試験とともに、現在、仮設の浮島を設置しており、水生生物の退避環境が整うまで、浮島が生息環境として機能するか今後確認することが望ましい。

